



元駐エジプト大使(大東文化大学教授)  
Kunio Katakura  
片倉邦雄さん

昨年11月11日にホワイトキューブで開かれた「新世紀・真田サミット」に、白石にゆかりのある片倉邦雄さんと白石宗靖さんが来賓として出演されました。

今回の新春対談は、お二人から白石との歴史的なかわりについて、また駐エジプト大使などを務められた片倉さんから、イスラムとパレスチナ問題などについて、サミットの前日にお話を伺いました。

### お互いの歴史を学ぶことが平和への道

略歴  
1933年 東京都に生まれる  
60年 東京大学法学部卒業  
外務省入省  
86～89年 駐アラブ首長国連邦大使  
90～91年 駐イラク大使(湾岸危機に際して邦人人質の解放に尽力)  
94～96年 駐エジプト大使  
99年 大東文化大学国際関係学部教授  
三春城主田村家の末裔で、片倉喜多の名跡を継いだ定廣から数えて11代目。著書に『人質とともに生きて』毎日新聞社/1994年、『トン考』アートダイジェスト/2001年など。



略歴  
1933年 東京都に生まれる  
57年 早稲田大学法学部卒業  
(博文祥堂入社)  
81年 セコム(株)入社(現在同社顧問。セコム情報システム(株)常勤監査役)  
87年 仙台藩志会理事  
白石城主白石宗実の叔父直安から数えて16代目。片倉邦雄さんとは、東京都立戸山高校で同期生。



仙台藩志会理事  
Muneharu Shiraishi  
白石宗靖さん

数十名の邦人を人質にとられたときに最後まで大使とし頑張られたのは、「僕の体の中には真田の血と坂上田村麻呂の血が流れている。そして喜多の名跡を継いだプライド、これが僕を支えてくれたんだ」とおっしゃったことなんです。白石のある程度の年齢の方は分かっていることとは思いますが、若い読者の方もありますので、その歴史的なかわり、白石の片倉、真田、そして田村家とのかかわり合いをお話したいなと思います。

片倉：十年前の湾岸戦争のとき、駐イラク大使、現場の指揮官として現場におりました。しかしそのときは、もうぎりぎりの選択で、ひいひい言いながらやっていったわけです。そのときは一刻一刻の対応でいっはい、後で振り返ってみて、自分の血に流れている歴史のロマンを感じたということになります。



喜多の墓をお参りした片倉さんと白石さん



喜多の墓と田村家墓所をつなぐ新道路(市道一本木線)

の重長がここ白石から出ていきました。激戦の末、武運つたなく幸村、大助親子がいよいよ明日は討ち死にというときに、幸村は敵方の指揮官であり、自分としても一番信頼を寄せている重長に、自分の娘を引き取ってもらいたいと矢文を飛ばした。そこで白石と真田のつながりができた。端的に言えばそういうことなんです。

初めに幸村の三女の阿梅が夜陰に紛れて出てきました。非常に敵方に対する諍議の厳しいときに、重長はとにかくかばって白石まで連れてくる。後に阿梅は重長の後妻になりました。私のところは、坂上田村麻呂を祖先とし、政宗正室の愛姫の

実家である福島県三春の城主田村家の末裔です。天正十八年の北条氏征伐に際し、田村家は秀吉に滅ぼされまして、城主だった田村宗頭は三春の地を離れ、牛織丹波定頭と改名します。夏の陣後しばらくして、愛姫の命を受けた重長は、定頭と長子定廣を白石に招き、父景綱の姉の喜多 梵天丸(伊達政宗)の乳母。この喜多の名跡を定廣に相続させたんです。そこから片倉姓になるわけです。私は定廣から数えると十一代目ということなんです。その後、京都の町方に潜んでいた阿梅の妹、阿高蒲が白石に引き取られ、定廣の室となったということなんです。

### 墓所への立派な道路に感激

川井：白石にお着きになってすぐ、喜多と田村家の墓所に参ら

川井：前に先生とお会いしましたとき、非常に印象に残っておりますことは、湾岸戦争で二百

### 歴史のロマンとプライドが支えに

### 片倉と真田そして田村

片倉：歴史をひもといてみますと、大坂夏の陣のときに真田幸村以下豊臣方が最後の抵抗をやる。そのとき徳川方の一角として伊達政宗、その先鋒として鬼の小十郎といわれた片倉二代目

川井：真田サミットを控えまして、片倉先生、そして白石さん、わざわざおいでいただきまして大変ありがとうございます。毎年正月は「新春対談」という形で掲載しておりますが、今回は「鼎談」ということをお願いをしたいと思います。勝手にさせていただきますが、前半はお二人に白石市との歴史的なかわりについて、そして後半は片倉先生に、「イスラム」について解説がてらお話をいただきたくということを進めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

それ、定廣から四代までは